



本号は、一般社団法人「すこやかのかいふくしま」とNPO法人「福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」のニュースレターの合併号として、2つの法人の活動の報告をします

一般社団法人「すこやかのかいふくしま」では、児童養護施設の卒園生の子育て支援をはじめました

2021年から「卒園生への食料支援」を行い、すこやかのかいふくしまと繋がっていた卒園生のうち1名の女子は、2022年には、食料支援の感想をハガキに書いてもらう調査に協力してくれました。この卒園生は昨年結婚し、今年の5月に子どもが生まれました。このことを出身施設から聞いたことで、児童養護施設の卒園生の子育て支援を行うパイロットケースとして特別予算を組み、1年間の予定で「すみれプロジェクト」を開始しました。

今後、事業化できるかを評価・検討していくとともに、政策提言にも繋がりたいと考えています。出身児童養護施設のアフターケア担当職員を中心に、その卒園生が在園中に担当だった施設長や事務の方と共に、すこやかのかいふくしまの齋藤代表、事務局澤田と対面での打合せ会を開催しながら進めています。

子育て支援は、粉ミルク、おむつ、お米、レトルト食品などの物資から始まり、8月の南海トラフ地震臨時情報が出た際には、非常用に液体ミルク、災害時の非常食・救急用品(写真 左側)などを用意し、施設の担当職員が持参したり、施設を通して郵送をしました。

赤ちゃんの成長・発達を見守りつつ、卒園生が安心して子育てができる環境づくりを施設と協力して行っています。



4年目になる卒園生への食料支援

「すこやかのかいふくしま」と「福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会(以下ICA福子)」の共同事業である、児童養護施設を卒園して立ち上がった若者への食料支援は、2021年コロナ禍の秋から開始して4回目になります。

今年は卒園生117名(6施設)に贈る予定です。このうち12名は子育て家庭です。これまでの3年間の経験から卒園生の好みや欲しいものを各施設の担当者が分かってきたので、今回は各施設が食料品を揃えて届けるまでをしてくれます。予算は、卒園生一人あたり3,000円で、子育て家庭には4,000円の食料を贈ります。また、今年立ち上がった卒園生には、非常用の懐中電灯も食料と一緒に届けます。

遠くは四国の卒園生まで送ります。送料はこれまで通り本会が支援します。一方45名の卒園生を施設の担当職員が訪ねて、手渡しで食料を届けて対面で時間を共有します。この機会はとても貴重で、卒園生にとっては悩み事を相談でき、うれしいことを報告できたりします。遠くは岩手県に届けるに行く予定です。そして卒園してから健康に関する相談に応じる「すこやかのかいふくしま」の紹介カードやLINEによるSNS相談の紹介をします。



すこやかのかいふくしま
紹介カード

総額予算は50万円。食料支援を応援してくださる方は「すこやか会ふくしま」へのご寄附をお願いします。

食料支援とともに、昨年度に引き続きグーグルフォームを用いて、卒園生の健康状態、健康

診断の受診状況、健康手帳の利用・満足度について調査を行います。さらに、健康診断、甲状腺検査の受診の希望についても尋ねる予定です。

甲状腺検査

チェルノブイリ原発事故後に甲状腺癌が多発したことから、福島県は2011年～甲状腺検査を開始して、現在6巡目(2023年4月～2025年3月まで)を実施しています。

2011年当時、福島県の児童養護施設では、措置された子どもの住民票を施設に異動しておらず、このため「先行検査」では、福島県から甲状腺検査の案内が施設の子どもの一部にしか届きませんでした。このため、ICA福子では、甲状腺検査ができる超音波診断装置を購入して「小澤道子プロジェクト」と名付けて、

児童養護施設内の子どもが安心していられる場所で実施してきました。

3年後の本格検査では、児童養護施設に入所中の子どもも対象になったので、表中の対象人数が増えています。

本会では2014年以降、卒園生の検査を施設まで来る交通費を補助して実施、また職員の検査も実施してきました。これまでに検査をしたのべ人数は、子ども957名、卒園生40名、職員229名(このうち1994年以降生まれの若い職員は県民健康調査の対象者)です。

第53回 県民健康調査検討委員会(2024年11月11日開催) 資料3を編集・加筆

検査回数		実施時期	対象者数	受診者	受診率	悪性ないし 悪性疑い	手術実施
第1回検査	先行検査	2011年度～2013年度	367,637	300,472	81.7%	116	102
第2回検査	本格検査	2014年度～2015年度	381,237	270,552	71.0%	71	56
第3回検査	本格検査	2016年度～2017年度	336,667	217,992	64.7%	31	29
第4回検査	本格検査	2018年度～2019年度	294,228	183,410	62.3%	39	34
第5回検査	本格検査	2020年度～2022年度	252,938	113,960	45.1%	48	42
第6回検査	本格検査	2022年度～2024年6月30日	211,901	45,348	21.4%	11	0
節目健診(25歳時)		2017年度～2024年3月31日	149,843	12,603	8.4%	23	18
節目健診(30歳時)		2022年度～2024年3月31日	44,489	2,221	5.0%	6	4
合計						345	285

手術実施の内訳	人数
良性結節	1人
乳頭癌	280人
低分化癌	1人
濾胞癌	1人
その他の甲状腺癌	2人

現在2011年3月11日に児童養護施設にいた子どもは中学3年生になり、また入所児童で県の検査の対象になる児童が少なくなっていること、さらに2年に1回の福島県の「甲状腺検査」を受けているので、昨年度から施設内では実施していません。

施設で行う甲状腺検査は、卒園生が検査を受ける機会になっていきましたが、この機会が無くなったので、昨年度は希望した卒園生2名の甲状腺検査を「福島共同診療所(福島市)」「たらちねクリニック(いわき市)」で受けられました。同時に健康診断も受診してもらいました。(澤田共同代表が同行)

今後は、福島県外の卒園生も検査が受けられるようにするために、今年はニーズ調査を食料支援の時に行います。調査の目的は、①検査を実施する場所を紹介すること、②交通費を補助したら検査を受けに行けるかを尋ねることとし、甲状腺癌の早期発見のための体制づくりをしています。

原発事故当時に児童養護施設に入所中で、その後「家庭復帰」した若者は、家庭が脆弱なまま成長して、困窮状態で不安定な家庭環境にいるケースがあるようです。今後は、この若者の

甲状腺検査についても検討していきたいと考えています。



児童養護施設で行った甲状腺検査(2017年)

福島県民健康調査検討委員会を傍聴しています

第53回「県民健康調査」検討委員会が2024年11月11日に開催されました。当日の参考資料3「甲状腺検査結果」を編集・加筆したのが、P2の表です。

2011年から開始した「甲状腺検査」の実施は、原発事故当時、福島県内に在住していた18歳以下の子どもに対し、20歳を超えるまでは2年ごと、それ以降は5年ごとに検査の同意を書面で得た人に検査を実施しています。受診率は18歳までは学校で行っていたせいもあり高く維持されていますが、節目検診と呼ぶ25~29歳までの間に受ける検査、30歳~34歳までに受ける検査は受診率が低くなっています。

これまで5回の検査によって早期発見されたのであれば、この年齢では出現しないはずの甲状腺癌が、25歳を過ぎてから発見されて手術をした若者もいます。このように、原発事故から10年以上経ってから癌が発見される例が報告されています。県の検査では345人が甲状腺がんやがんの疑いと診断され、285人が手術を受けています(うち1人は良性結節)。その他に34名の甲状腺がん患者(2018年までの全国癌登録集計)がわかっています。

甲状腺癌の多発については、過剰診断のために発生が多いと分析、被曝線量との因果関係はないとの結論などがあります。しかし、起こりうるリスクにそなえて万全の予防策を講じるべく、児童養護施設を出てからの甲状腺癌の早期発見のために検査を受けられる体制の整備

が求められます。「すこやか会ふくしま」がその役割を果たせるよう模索しています。

13年続くこの県民健康検査は、「甲状腺検査」では、原発事故時の放射線量(居住地域)と甲状腺癌の発生との相関を見るときに、居住地域の分類を途中で変更したことや、さらに線量計算についても手法の根拠があいまいであることが、有識者から指摘されています。

「妊産婦に関する調査」では、新生児の奇形や早産のデータは調査を受けた母親からの報告で集計して、放射線の影響は無いと結論づけ、調査を2022年度で終了していますが、このデータは医療者からの客観的なものではありませんでした。(左側QRコード)

「こころの健康度・習慣に関する調査」では子どもの精神状態の検査も使用している質問:子どもの情緒と行動(SDQ)の適切性について検討委員から疑問が出されており、今回の検討委員会で修正がありました。(右側QRコード)

妊産婦に関する調査

<https://fukushima-mimamori.jp/pregnant-survey/outline.html>



こころの健康度・習慣に関する調査

<https://fukushima-mimamori.jp/mental-survey/outline.html>



こころの健康度・生活習慣調査調査票について

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/658406.pdf>



里子版「健康手帳」の開発をしています

家族が育てることができない子ども「要保護児童」は、児童養護施設のほか、ファミリーホームや里親さんで育てられます。2013年1月に完成した児童養護施設用健康手帳(前号 P2で詳細を紹介)からヒントを得て、里親をしている齋藤理事が、里子にも成長の記録としての『健康手帳』を持ってもらえたらと考えました。

子どもが自分の記録を持って成長して、実の親のもとへ家庭復帰する、また他の施設で育つ、ひとり立ちした時、どんな風に大切に育てられたかを記録するものが必要と考えました。

里子がずっと持っていられる「オンリーワンの成長記録」というアイデアです。遺贈として頂いた寄附を基に試作を始めています。

ご支援いただける活動へご寄附を

すこやか会ふくしま 設立5周年記念募金

2019年11月に創設した「一般社団法人すこやか会ふくしま」は、
設立5周年を迎えました

NPO 法人 ICA 福子へのご寄附

主な活動対象

児童養護施設に入所している子ども向け事業
実施事業

- ・施設の災害対策や原発事故による教訓のまとめ
- ・被ばくモニタリング検査としての甲状腺検査
- ・健康手帳 贈呈事業
- ・卒園前の準備教育
- ・児童養護施設の看護師研究会の支援

一般社団法人すこやか会ふくしまへのご寄附

主な活動対象

卒園した若者の健康を支える事業

実施事業

- ・甲状腺の検査を受ける卒園生への交通費補助
- ・健康診断(含 甲状腺検査)受診補助・食料支援
- ・健康被害発生時の検査・治療

その他これまで5年間の事業

- ・卒園、ひとり立ちのための準備教育助成
- ・スーツ購入自立支援プログラム
- ・アフターケア研修会

年賀状の書き損じはがき、未使用切手による寄附はNPO法人ICA福子で受け付けます。

感謝！ ご寄附・未使用切手、会費納入等を頂いた皆様(順不同 敬称略)

2024年5月21日～2024年11月20日

▼NPO 法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

国際基督教大学高等学校キリスト教活動委員会、日本基督教団名古屋東教会、2010 オリーブの木、石原 昌子、磯部 和子、糸柳 尚子、榎本 順一、大町 敬子、大谷 俊樹、大塚 哲朗、小林 美亜、笹鹿 美帆子、澤田 和美、澤田 稔、志賀 由美、清水 るみ子、鈴木 敏夫、高橋 久夫、武田 祐子、田上 文子、竹中 眞美子、中野 陽子、原 久子、深野 善人、福山 裕紀子、前島 忻治、前村 恵、馬淵 由季子、三谷 美香、宮田 美恵、武藤 房枝、村本 淳子、吉村 勉、へるす出版「小児看護」編集室、匿名3名

▼一般社団法人 すこやか会ふくしま

はらからの歌声(福山竜一)、2010 オリーブの木、赤坂 康子、大橋 めぐみ、小田 美乃里、権田 倫子、馬淵 由季子、丸尾 めぐみ、中野 陽子、深野 善人、安江 真佐子、吉村 勉、匿名1名

NPO 法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

代表理事 澤田 和美(福島事務所 事務局長)、塩飽 仁(東北大学大学院 小児看護学 教授)

連絡先 Email fukujidou@yahoo.co.jp ホームページ <http://www.fukujidou.org>

一般社団法人 すこやか会ふくしま

代表理事 齋藤 久夫(元 児童養護施設 福島愛育園 施設長)

連絡先 Email fsukoyaka@yahoo.co.jp ホームページ <http://www.sukoyaka-f.org/>

共同事務所: 〒960-8055 福島市野田町 6-4-74-5 メゾンオーブ C203 電話・FAX: 024-573-2939